

東日本大震災復興支援第六次ボランティア派遣

兵庫県勤労者山岳連盟

前回までは宮城県内での復興支援ボランティア活動を行ってきましたが、今回は最も難題を抱える福島県を対象地域に選定し、地元福島労山の協力を得て実施しました。

1.実施期間 2013.10.25(夜)~29(朝)

大阪より夜行高速バスで移動

2.目的

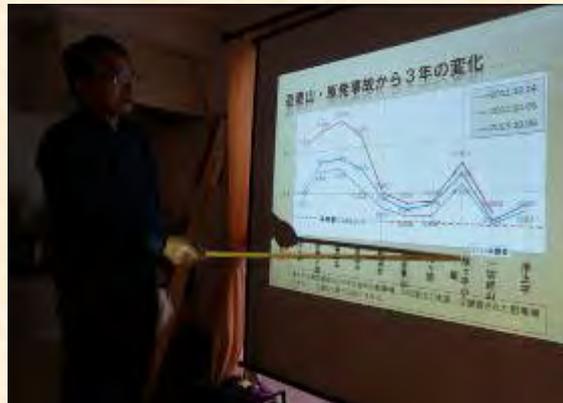
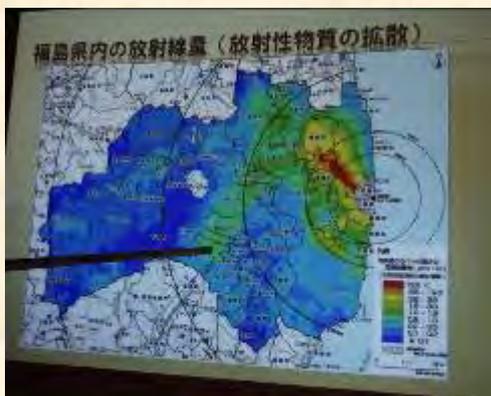
登山道での放射線量の測定支援と原発事故被災地域の実態把握

3.参加者

兵庫労山各会より18名参加

4.実施内容

10.26 福島労山関係者より福島労山の取り組みについて説明を受ける。



吾妻山での過去3年間の計測値の変化の説明

なぜ山岳会が放射線量を計測するか

登山道は政府も自治体も計測してくれないので、大学の先生の指導を受けながら計測をはじめた。

原発事故問題が風化しないよう登山をしながら計測は続けなければならないと。

地形、山域の状態等で同じ地域でも放射線量が大きく異なると説明を受け、実地計測を行いメンバー全員が確認した。



使用した線量計 10万円以上する。



計測実習

10.27 吾妻山、安達太良山、磐梯山の实地計測

三班に分かれて福島労山各会の案内で現地計測

台風の通過後気圧配置は冬型 標高 2000m近い吾妻山山系では樹林帯を出ると 20m 近い強風にさらされる



東吾妻山山頂 (1975m) 氷点下で強風に耐え計測



磐梯山での計測



安達太良山での計測

10.28 原発の被害を大きく受けている飯館村、浪江町地域の視察と霊山での計測



飯館村役場前



名産飯館牛の販売店(閉鎖中)

飯館村に入ると放射線量が高く線量計が鳴り出す。昼間は人が入れるが夜は無人の村

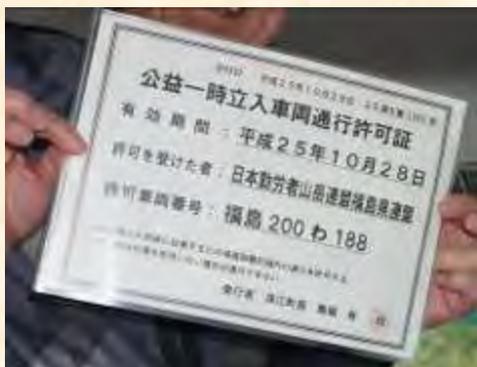


見捨てられた牛を守る「希望の牧場」浪江農場



原発事故の悲劇を訴える牧場の代表

* 福島の方から出てくる言葉は「高台に設置した女川原発（東北電力）は紙一重で助かったが、経済性を優先して（海水を汲み上げるポンプの動力費節約のため）高台をわざわざ 40mから海拔 10mまで掘り下げて設置した福島第一原発は大惨事を招いた。津波のリスクも建設当時訴えた」と



原発 20 K m 圏内に福島労山で取得した許可証で入る



小高漁港から津波で打ち上げられた漁船



至近距離で福島第一原発が見える

立ち入り禁止禁止区域のため、2年半前のまま、広い農地には雑草が茂り、復興から取り残された場所



阿武隈山系側の霊山（放射線量が比較的高い）



山腹での放射線量計測



参加メンバー